

事例5 豊かなスポーツライフの実現に向けた、男女共習指導事例

- 学年 第3学年
- 単元名 「球技」(ソフトテニス)
- 事例のポイント
 - ①豊かなスポーツライフの実現に向けたオリエンテーションの工夫。
 - ②男女混合のグループで学習を行い、メインゲームにおいても男女共習で実施する。
 - ③生徒の意欲を高めるために、基本技能の向上を目指してドリルゲームを実施する。
 - ④“生涯スポーツであるソフトテニス”ととらえ、より一層ソフトテニスの魅力を感じられるように、ラリーが続く楽しさに重点を置いて授業を展開する。
 - ⑤ゲーム中の動きを改善したり、作戦を考えやすくしたりするために、ICT端末を活用する。

1 単元名 「球技」(ソフトテニス)

2 運動の特性

(1) 一般的特性

ソフトテニスは、ネットを挟んで相対するプレーヤー同士がラケットを使ってボールを打ち合い、相手コートに空いた場所をめぐる攻防を展開しながらお互いに得点を競い合う「ネット型」の競技である。老若男女を問わず幅広い年齢に適應できる生涯スポーツとして親しめる。また、ゴム製のボールを使用しており、硬式テニスに比べてラケットが軽く、接触プレイがほとんどないため安全性が高い。

(2) 生徒から見た特性

ソフトテニスの楽しさや喜びを感じる要因	ソフトテニスを遠ざける要因
<ul style="list-style-type: none">・仲間と協力しながらラリーが続いたとき。・得点したときや狙い通りのコースに打てたとき。・強いボールを打てたとき。・ネット付近でボールの侵入を防いだとき。	<ul style="list-style-type: none">・ラリーが続かないとき。・ボールやラケットをイメージ通りに操作できないとき。・ラケットとボールの距離感をつかめずに、なかなかボールを当てられないとき。・スピード感のあるボールに対する恐怖心を感じたとき。

3 生徒の実態 (略)

4 教師の指導観

(1) 知識及び技能

ソフトテニスの技術や作戦を確認しながら、相手コートに空いている空間の見つけ方や戦術などを理解できるようにする。ラケット操作に慣れることが技術向上につながるため、感覚づくり運動の中で巧みにラケットを操作できるように指導していく。また、ラリーが続く楽しさを感じられるようにロビングを身に付けられるようにしていく。単元の後半では、前後の空いている空間を使うことで、攻撃の展開の幅が広がるように、ショートボールとロビングを使いながら空いた場所をめぐる攻防を展開できるようにする。

(2) 思考力、判断力、表現力等

自分たちにあった課題解決方法を考えられるようにするために掲示物を作成したり、作戦ボードを活用したりして、ペアやグループでの話し合い活動を充実させる。また、ICT端末を活用し、動画撮影を行うことで、振り返りをしやすい環境を整える。撮影した動画を次の授業の導入で活用することで、本時のねらいに迫れるように指導していく。自分の動きや仲間の動きを見ることで、課題を発見したり、解決方法について考えたり、アドバイスを送り合ったりできるようにする。

(3) 学びに向かう力、人間性等

生徒が積極的に取り組めるよう、個々の技能を高めるためのドリルゲームやタスクゲームを工夫しながら取り入れていく。また、役割分担やルールを工夫して、できるだけボールに触れる機会が多くなるようにする。互いに認め合い、高め合いながら授業に取り組んでいけるよう、励ましや称賛の言葉かけを大切に、達成感や充実感を味わえる授業を目指す。

5 単元の目標

- (1) ソフトテニスの技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開できるようにする。 〈知識及び技能〉
- (2) 攻防などの自己やペアの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) ソフトテニスの学習に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとするこ
と、互いに助け合い教え合おうとすること、健康・安全を確保することができるようにする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <p>①空いている場所をめぐる攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方、運動観察の方法などについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>②ソフトテニスにおいて用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>○技能</p> <p>③ラリーをしやすい高さにボールを打ち、ラリーを続けられる。</p> <p>④ボールを相手側のコートの中空いた場所やねらった場所に打つことができる。</p> <p>⑤ポジションの役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返すことができる。</p>	<p>①合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。</p> <p>②ペアで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて、自己の活動を振り返っている。</p>	<p>①ソフトテニスの学習に自主的に取り組もうとしている。</p> <p>②相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしている。</p> <p>③健康や安全を確保しながら取り組んでいる。</p>

7 単元の計画

- (1) 領域の取り上げ方 (略)
- (2) 領域の内容と目指す動き

学年	内容	目指す動き
2	ネット型 (ソフトテニス)	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを返す方向にラケット面を向けて打つなどの基本的なラケット操作を身に付けること。 ・相手側のコートの中空いた場所にボールを返すこと。 ・サービスでは、ボールやラケットの中心付近で捉えること。
3	ネット型 (ソフトテニス)	<ul style="list-style-type: none"> ・ラリーをしやすい高さにボールをコントロールし、ラリーを続けること。 ・ボールを相手側のコートの中空いた場所やねらった場所に打ち返すこと。 ・ポジションの役割に応じて、拾ったりつないだりして打ち返すこと。

(3) 指導と評価の計画(10時間扱い) 本時は○印 6/10時

	1	2	3	4	5	⑥	7	8	9	10	
ねらい	学習の見直しをもち、ソフトテニスの特性を知ろう	ラリーを続けるためのポイントを見つけよう	ゆったりとしたロビングでラリーを続けよう	グループの仲間と協力して、自主的に取り組もう	安全を確保しながらゲームに取り組みよう	空いているスペースを見つけて攻めよう	相手を尊重し、フェアプレーを大切にしよう	アドバイスを送り合い、ゲーム中の動きを工夫しよう	ペアで協力してコートを守ろう	高めた技能を生かして、ゲームを楽しもう	
指導内容	・技術の名称、技術を身に付けるためのポイント ・学習の進め方 ・グループ編成、役割分担	・スキルチェックの仕方(1分間ラリー、サービス6本) ・課題発見と出来映えの伝え方	・簡易ゲーム①の仕方 ・ロビングの仕方	・簡易ゲーム②の仕方 ・練習への取り組み方	・ゲーム(シングルス)の仕方 ・安全な取り組み方	・ゲーム(シングルス) ・空いている空間の見つけ方	・ゲーム(3対3)の仕方 ・仲間とのかかわり方	・ゲーム(3対3) ・課題の見つけ方とアドバイスの伝え方	・ゲーム(ダブルス)の仕方 ・定位置への戻り方	・ソフトテニスの特性 ・まとめのゲーム(ダブルス)	
学習過程	1 集合、挨拶、出席確認、健康観察	1 用具の準備 2 集合、挨拶、出席確認、健康観察 3 準備運動 4 感覚づくりの運動 5 スキルチェック 6 本時のねらい、内容の確認									
	2 本時のねらいと内容の確認	7 スキルチェックの確認 ・1分間ラリー ・サービス6本	7 ドリル練習Ⅰ ・バックコートへの1本打ち	7 ドリル練習Ⅱ ・バックコートとフロントコートへの1本打ち	7 ドリル練習Ⅱ	7 ドリル練習Ⅱ	7 ドリル練習Ⅱ	7 3対3ゲームの確認 ・ルールと進め方の確認 ・仲間とのかかわり方を確認	7 前回の試合の振り返り ・前回撮影した動画を見返し、課題を確認し本時の学習につなげる	7 ダブルスゲームの確認 ・ルールと進め方の確認 ・ペアでの役割分担の確認	7 前回の試合の振り返り ・前回撮影した動画を見返し、本時の学習につなげる
	3 オリエンテーション ・授業の目標 ・技術の名称 ・技術を身に付けるためのポイント ・学習の進め方	8 グループ練習 ・グループ内で3人組を作り、ラリー練習 ・ICT端末を活用(ラリーの様子を確認)	8 簡易ゲーム① ・ルールと進め方の確認 ・ラリーゲームⅠ(グループごとにラリーを続けた回数を競い合う)	8 簡易ゲーム② ・バックコートとフロントコートへ交互に打ち分け	9 シングルスゲーム ・ICT端末を活用(試合の様子を撮影し、次回の学習につなげていく)	9 シングルスゲーム	8 3対3ゲーム ・ICT端末を活用(試合の様子を撮影し、次回の学習につなげていく)	8 3対3ゲーム ・試合の振り返り ・グループごとにゲーム中の動きを工夫した点を振り返る	8 ダブルスゲーム ・ICT端末を活用(試合の様子を撮影し、次回の学習につなげていく)	8 ダブルスゲーム ・試合の振り返り ・ペアの連携や高まった技能について振り返る	8 ダブルスゲーム ・試合の振り返り ・ペアの連携や高まった技能について振り返る
	4 グループ編成 役割分担	事例のポイント① 学習の中で学び合えるようにグループ編成を工夫する。テニス経験者だけではなく運動経験を考慮しながらグループ分けを行う。 									
	5 用具の準備	事例のポイント⑤ ICT端末を活用して試合の様子を撮影し、メインゲームでの学びを深めるために次の時間に活用する。ねらいを達成するためにプレーのイメージを明確にもたせる。 									
	6 準備運動	事例のポイント② メインゲームにおいても男女混合のグループで実施をし、豊かなスポーツライフの実現につなげていく。 									
	7 感覚づくりの運動の確認	9 集合、健康観察	10 整理運動								
	8 学習の振り返り カードの記入	11 学習の振り返り、学習カードの記入	12 まとめ	13 次時の予告	14 挨拶、片付け	10 集合、健康観察	11 整理運動	12 学習の振り返り、学習カードの記入	13 まとめ	14 次時の予告	15 挨拶、片付け
	9 まとめ										
	10 次時の予告										
	11 挨拶、片付け										
評価の計画	知・技	①		③			④		⑤	②	
	思・判・表 態		①		①	③		②			
	方法	観察 カード	観察・カード	観察 ICT端末	観察・カード	観察	観察 ICT端末	観察	観察・カード	観察 ICT端末	観察・カード
	場面	3、8	8、11	7、8	8、11	9	9、12	8、9	8、12	8	9、12

8 本時の学習と指導（6／10時）

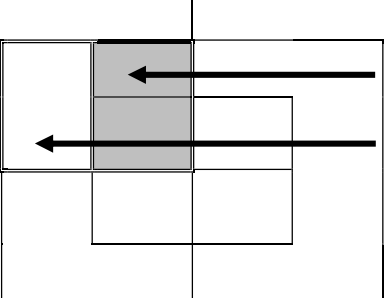





(1) ねらい

- ・ボールを相手側のコートの空いた場所やねらった場所に打つことができるようにする。

（知識及び技能）

(2) 準備（略）

(3) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点（○指導 ◆評価規準）
導入 10分	1 用具の準備 2 集合、挨拶、出席確認、健康観察 3 準備運動 4 感覚づくりの運動 (1)ドリブル・リフティング 交互・足抜き・背面 (2)ドリブルランニング (3)ラリー練習 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 事例のポイント② 男女混合のグループで学習を実施。ドリル練習やメインゲームでも男女共習とする。 </div> 5 スキルチェック (1)1分間ラリー (2)サービス4本打ち	○自分の役割に責任を持たせ、安全に素早く準備させる。 ○効果的な準備運動ができるよう、動きのポイントについて声かけをしていく。 ○ラケットでボールを上手く操作できるように、力加減や面の向きを考えるように声をかける。 ○スキルチェックやドリル練習、シングルスゲームに向けて、ラリーがつながるように工夫するよう指示を出す。 ○感覚づくりの運動やスキルチェックをグループごとに協力して行うように声かけをする。 ○スキルチェックをグループごとに実施し、学習カードに記入させる。 ○安全を確保できるように、待機者や観察者はフェンス際で待機するように指示を出す。
展開 30分	6 本時のねらいと学習内容の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 空いているスペースを見つけて攻めよう </div> 7 ドリル練習Ⅱ (1)バックコートへの1本打ち (2)フロントコートへの1本打ち <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 事例のポイント④ ラリーがつながるように、高さのある山なりのボール（ロビング）を練習させる。 </div> (3)バックコートとフロントコートへの打ち分け   	○前時の学習について振り返り、本時の流れ、ねらいを説明する。 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <small>ソフトテニス授業動画資料</small> </div> ○バックコートへ打つためには簡易ネットの上を通すように指導する。 ○フロントコートへ打つためには簡易ネットとネットの白帯の間を通すように指導する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> ○練習者、ボール出し、計測者を分担して協力しながらドリル練習に取り組ませる。 ○10本中何本入ったかを数え、学習カードに記録させる。 ○前時までのドリル練習Ⅰ・Ⅱを生かし、バックコート（白色）とフロントコート（灰色）へ打ち分けられるように指導する。 ○ドリル練習Ⅱがシングルスゲームにつなげられるように指導する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> 事例のポイント③ 生徒がより一層意欲的に取り組めるように、ゲーム形式の練習を取り入れ、基本技能向上につなげていく。 </div>

8 前回の試合の振り返り

事例のポイント⑤

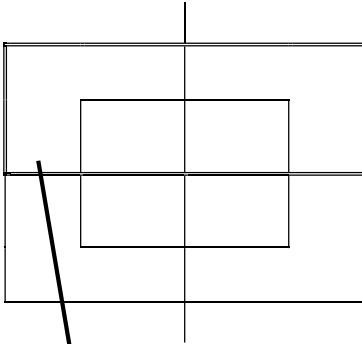
前回の授業でICT端末を用いてシングルスゲームの様子を撮影させる。動画を見返し、本時の学習をより深めていく。



※前回の授業時に撮影した動画を振り返りで使用していく。

9 シングルスゲーム

- ・1試合5分で実施
- ・サービスは2本まで
- ・2本目はサービスラインまで前に出ても良い
- ・サービスは1ポイント交代



シングルス試合コート



※コート半面ずつを使用し、2ペアが同時に試合を実施する。

- 前回の授業で撮影した動画を見返し、どんなところに返球していたかを確認し、本時の学習につなげていく。
- どのような場所が空いているスペースなのかを助言していく。



- ハーフコートを使用して実施する。
- 5分間で、なるべく多くできるようにボール拾いを素早く行えるように声をかけていく。
- ルールを理解し、スムーズに交代できるように、事前の確認をしっかりと行う。
- ダブルフォルトのポイントを極力減らすために、2本目のサービスは打つ位置を工夫するように声をかけていく。
- 空いているスペースをめぐる攻防ができるように声をかけていく。

◆ボールを相手側のコートの空いた場所やねらった場所に打つことができる。
(観察・ICT端末) 【知識・技能】

△努力を要すると判断される状況(C)の生徒への指導の手立て

- ・その場で声をかけたり、動画を見せたりして、空いているスペースを見つけることができるようにする。

◎十分満足できると判断される状況(A)の生徒の具体的な姿

- ・シングルスゲームの中で、バックコートとフロントコートへの打ち分けを実践している。
- ・ラリー中に相手の配球を予測して、ポジションを工夫している。

整理
10分

- 1 0 集合、健康観察
- 1 1 整理運動
- 1 2 学習の振り返り、学習カードの記入
- 1 3 まとめ
- 1 4 次時の予告
- 1 5 挨拶、片付け



- 素早く集合できるように声かけをする。
- けがや体調不良の確認を行う。
- 学習カードに、本時のねらいの達成状況や学習の中で見つけた課題等を記入できるように声をかける。
- アドバイスを伝え合うことで、お互いが高め合えることを伝える。
- 次時の授業の見通しをもてるように説明する。
- 素早く協力して片付けさせる。